

広島大学長表彰について

広島大学では、平成14年度に「学長表彰制度」を設け、教育・研究や社会貢献などで特色ある顕著な業績を挙げ、広島大学の発展に貢献した本学教職員や団体および学外の個人や団体に対して毎年11月に顕彰を行っています。

平成23年度の被表彰者として被表彰者一覧のとおり学内外の1団体および10名を決定しました。

なお、授与式は、平成23年11月24日（木）11：00～の予定です。

【表彰の対象】

1. 社会活動に関するもの
人命救助、犯罪防止、災害防止、ボランティア活動 など
2. 教育研究活動に関するもの
教育、教育方法の改善等、学生生活支援等、研究 など
3. 課外活動の振興に関するもの
課外活動の振興のための支援等 など
4. 医療活動に関するもの
医療、疾病の予防のための措置 など
5. 教育研究等支援活動に関するもの
職務の能率増進に係る発明・考案等、キャンパスの施設整備等の整備・環境保全等、安全管理 など
6. 大学改革の増進等に関するもの
大学改革の推進に係る積極的な提案等、社会との連携等、業務運営の改善・効率化、財務内容の改善、点検・評価の充実、情報提供の推進等 など

【お問い合わせ先】

財務・総務室
サービスグループ 林 伸幸、濱尾 香代
TEL:082-424-6024、4404 FAX:082-424-6080

平成23年度広島大学長表彰被表彰者一覧

○個人10名（学内9名、学外1名）、団体1組（学外1組）

平成23年10月24日現在

所属（団体名）	職名	氏名（代表者）	表彰該当基準	概要
作家		小山田 浩子	社会活動	新人作家の登龍門として長い伝統を持つ新潮新人賞に応募され、見事、第42回の受賞者となりました。受賞作「工場」は、巨大な工場の中で意味のない労働に従事させられる3人の目を通して社会や他者を巧みに描き、その卓越した表現力は高く評価され、受賞後も新たな作品を発表し好評を得るなど、本学出身者として、本学の発展に顕著な貢献をされました。
広島大学	名誉教授	永井 克彦	教育研究活動	超流動・超伝導の境界効果に関して独創的な理論を展開され、実験グループとの共同研究を推進され、世界で初めて超流動 ³ Heの表面束縛準粒子励起の検出に成功されるなど、本学の研究水準の高さを国際的に示され、本学の発展に顕著な貢献をされました。
広島大学マスターズ	代表	金田 晋	社会活動 及び 教育研究活動	平成18年に設立されて以降、今日まで市民講座などを200回以上開催され、さらに今年度からは本学の教養教育にも参画されるなど、地域社会への貢献と本学の教育や社会連携事業への支援を通して、本学の発展に顕著な貢献をされました。
放射光科学研究センター	特任助教	岩澤 英明	教育研究活動	放射光の直線偏光特性を活用した世界最先端の光電子分光装置を開発され、高温超伝導の発現機構の研究に新しい展開をもたらされました。これにより、本学の共同利用・共同研究拠点の機能強化に大きく貢献されるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院教育学研究科 附属特別支援教育実践センター	准教授	川合 紀宗	社会活動 及び 教育研究活動	本邦の特別支援教育のみならず、米国の音声言語病理学の発展に寄与され、米国音声言語聴覚学会から表彰されるとともに、特別支援教育実践センターでの東日本大震災被災者家族への教育・心理臨床相談の優先的対応等、相談業務並びにセンター運営に尽力されるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院医歯薬学総合研究科	教授 (病院長補佐)	木内 良明	医療活動	眼科診療体制の拡充に務め、眼科6分野全てにおいて世界トップレベルの診療を提供されるなど病院運営に尽力されるとともに、角膜移植の医療技術の推進及び移植事業の運営、緑内障の術式改良等の指導に尽力され、病院運営及び地域医療の発展に寄与されるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院先端物質科学研究科	助教	久米 一規	教育研究活動	酵母をヒトのモデル系として使用し、酵素「カルシニューリン」が細胞の癌化（増殖と形態の異常）を抑える機能を有する可能性を世界に先駆け見出し、その成果をNature Cell Biology誌に公表し、高い評価を得られるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院理学研究科	教授	高橋 嘉夫	教育研究活動	微生物の細胞表面では微生物が存在しない部分に比べてレアアースを高濃度の濃縮する現象を見出されるとともに、レアアースの中でも特に希少価値の高い元素が選択的に濃縮することを発見され、その濃縮メカニズムをX線呼吸法（EXAFS法）により明らかにし高い評価を得られるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院理学研究科	准教授	古本 強	教育研究活動	C4植物の研究を基礎に、葉緑体に局在しナトリウム濃度依存的にピルビン酸を輸送する「BASS2」というタンパク質を突き止められ、その成果をNature誌に公表し高い評価を得られるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院医歯薬学総合研究科	教授	松本 昌泰	医療活動	本学に全国に先駆けて小児から大人までの難病に対応する難病対策センターを設立されるとともに、難病相談はもとより難病従事者研修会の開催など、難病患者やその家族のQOLの向上に資する多くの事業を実施するなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院工学研究院	准教授	陸田 秀実	教育研究活動	弾性素材と圧電素子を層状に重ね合わせた柔軟発電パネルを開発されるとともに、これを複数枚組み合わせ、波・潮流・海流・渦などの海洋エネルギーを電気エネルギーに変換する発電方式（「広島カキいかだ型」発電装置）を開発され、広島県発の自然エネルギー技術として注目されるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。